

言語活動を学びの中心に据えた外国語活動 —言葉で伝える楽しさを実感できる授業づくり—

佐那河内村佐那河内小学校教諭 杉原 萌里

1 はじめに

本校は園瀬川の上流に位置する佐那河内村に在る在籍児童生徒数約120名の小中一貫校である。豊かな自然の中、全ての児童・生徒は、保育所の頃からともに生活しており、仲良く助け合って生活している。小中一貫校である本校では、特別な教育課程を設定することができ、ふるさと教育と英語教育がその特色となっている。英語教育においては、「豊かな国際感覚と英語力を身に付け、自分のことやふるさと佐那河内を含めた身の回りのことを表現し、発信する児童生徒の育成」を目標とし、1・2年生では英語活動、3・4年生では外国語活動、5・6年生では外国語の授業を行っている。

佐那河内村教育委員会が実施する英語に対する意識調査（令和2年度10月小1～中3実施）によると、児童は英語の音声を楽しんでいる。一方で、自分から誰にでも英語で話しかけることや英語で自分の意見を言うことに課題があることが明らかになった。

本学級の3年生（13名）においても、幼い頃から英語に触れているため、英語に対する抵抗感の少ない児童が多い。ALTの母国についての話を熱心に聞いたり、聞こえてきた英語を進んで声に出したりするなど、明るい雰囲気の中で活動に取り組んでいる。しかし、自分の思いを伝えることに消極的な児童や、英語で伝えることに一生懸命になってしまい、友達の話に興味をもって聞くことが難しい児童もいる。その要因として、表現に十分に慣れ親しんでおらず、自信がもてなかったり、保育所から互いのことをよく知っているため、言葉で伝え合う必然性を感じていなかったりすることが考えられる。

そこで、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動を中心とした単元構成を工夫し、表現に十分に慣れ親しませ、児童に自信をもたせたい。また、友達のことについて新たな気付きをしたり理解を深めたりするような活動を取り入れることで、主体的にコミュニケーションを図り、言葉で伝える楽しさを実感できるようにしたい。「主体的にコミュニケーションを図る」とは、自ら発話したり、相手の伝えたい内容を受け止めようとして聞いたりすることである。母語では取り立てて伝え合うことがないような身近な事柄について伝え合うことで、言葉で伝え合う楽しさを感じることができるようにしたいと考えた。

2 児童のめざす姿と実践の手立て

児童のめざす姿

主体的に聞いたり話したりし、言葉で伝える楽しさを実感する児童

手立て

〔手立てI〕 児童が自信をもてるよう言語活動を中心とした単元構成を工夫する。

〔手立てII〕 友達について、新たに気付いたり理解を深めたりする活動を取り入れる。

3 実践例①

(1) 単元名

I like blue. すきなものをつたえよう (『Let's try!1』 Unit4)

(2) 単元の目標

- ・多様な考え方があることや、音声やリズムについて外来語を通して日本語と英語の違いに気付き、好みを表したり好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。【知・技】
- ・互いのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを伝え合う。【思・判・表】
- ・互いのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを伝えようとする。【態度】

(3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	多様な考え方があることや、日本語と英語の違いに気付き、色やスポーツなど身の回りのものについて、I like ～.I don't like～. Do you like～?などを用いた表現を聞くことに慣れ親しんでいる。	本単元では評価しない。	本単元では評価しない。
話すこと [やり取り]	色やスポーツなど身の回りのものについて、I like ～.、I don't like～.やDo you like～?などを用いて好みを表したり好きかどうかを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	互いのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、色やスポーツなど身の回りのものについて、自分の好みを伝え合うことができる。	互いのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、色やスポーツなど身の回りのものについて、自分の好みを伝え合おうとしている。

(4) 単元計画 (主な学習活動) ～言語活動を中心とした単元構成の工夫 (手立てⅠ) ～

※ は主な言語活動

1	<p>◆多様な考え方があることに気付くとともに、好きなものを表す表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が描いた虹を見比べる。 ○【Let's Watch and Think1】 p.14 ○シャッフル・ゲーム ○【Let's Chant】 I like blue. ○【Let's Listen1】 p.16 ○ペアで好きな色について伝え合う。 ○指導者のやり取りから、本単元のゴールをつかむ。
2	<p>◆外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付くとともに、好きなものや好きでないものを表す表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【Let's Chant】 I like blue. ○指導者のやり取りから、好きなものや好きでないものを表す表現を知る。 ○ミッシングゲーム ○Who am I?クイズ ○【Let's Listen2】 p.16 ○カードデスティニーゲーム ○ペアで好きなものと好きでないものについて伝え合う。
3	<p>◆好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、自分の好みを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【Let's Chant】 I like blue. ○指導者のやり取りから、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知る。 ○【Let's Watch and Think②】 p.17

	○友達に聞いてみよう ○×クイズ ○【Let's Play】 友達の好きなものを予想して、インタビューをする。
4	◆相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介する。 ○【Let's Sing】 I like soccer. ○【Let's Listen3】 p.16 ○カードを作成し、自分の好きなものを紹介する。

単元を通して、自分のことを伝え合う活動を段階的に設定した。第1時では、好きな色、第2時では好きなスポーツや好きでないスポーツ、第3時では好きなものを尋ね合った。第4時では、好きなものや好きでないものを伝え合い、相手にも好きかどうかを尋ねた。その他にもチャンツやゲームの活動でも単なる練習にとどまらず、既習表現を用いて自分のことを伝え合う活動につながることで、言語活動を中心とした単元構成をさらに工夫する必要があると考えた。

(5) 授業の実際～友達について新たに気付いたり、理解を深めたりする活動（手立てⅡ）～

○ みんなの虹をくらべよう

本単元の導入では、タブレットを活用し、児童一人一人が虹を描く活動を行った。児童が描いた虹を大型テレビで共有し、自分と友達が描いたものを見比べることができるようにした。ある児童が、友達の描いた虹を見て「○○さんの虹が竜みたいに見えてすごいと思いました」と発言した。同じ「虹」であっても、色や塗り方が違うことから、多様な考え方があることに気付く、お互いのよさを感じていた。そして、「もっとちがう虹も見たい」と呟いた児童がいた。自分と異なる考え方に触れ、自分と異なっていたり同じだったりするものの面白さに気付くことができたと考えられる。保育所の頃から一緒に生活している友達の知らない一面を知りたいという意欲が高まってきた。



○ 友達に聞いてみよう ○×クイズ

第3時では、代表児童に Do you like～?を使って好きかどうかを尋ねる活動を行った。代表児童が答える前に好きかどうかを予想することで「知りたい」「聞きたい」という思いの高まりを高めた。そして、好きな理由を日本語で伝えることを通して、友達の新たな一面を発見していた。また、自分と同じものが好きだと知ることで、その後の温かい人間関係作りにもつながった。



(6) 単元を終えて

○ 言語活動を中心とした単元構成の工夫（手立てⅠ）

段階的に言語活動を設定したことで、学びを自覚しながら自分の考えや思いを伝える経験

を積むことができた。そして、学習が進むにつれ、自信をもって話すことができるようになり、次の活動への意欲にもつながった。

自分が好きな色を伝えられてよ
うです。あとほいほいです。

【児童の振り返り①（第1時）】

言葉で伝えることの楽しさを感じ、もっと自分のことを知ってほしいという意欲を高めていることが分かる。

好きなものを言えてよか
うだ。おれ先生にも言
たい。おれ先生も、みんなのこ
とも知るのを楽しみにしてい

【児童の振り返り②（第3時）】

好きなものを伝えられるようになったことに自信をもち、「伝えたい」という意欲を高めていることが分かる。

○ 友達について、新たに気付いたり理解を深めたりする活動（手立てⅡ）

互いの虹を比べたり○×クイズをしたりすることで、友達との共通点や相違点に気づき、友達への新たな発見をしていた。しかし、この段階では、言葉で伝える楽しさを実感している児童は少なかった。

みんなの好きな色が知れて
うれしかったです。発表も上手にできよかったです。

【児童の振り返り③（第1時）】

学級の友達について知ることができてうれしかったことが分かる。

4 実践例②

(1) 単元名

What do you like? 佐那河内の好きなものをたずねよう (『Let's try!1』 Unit5)

(2) 単元の目標

- ・日本語と英語の音声の違いに気づき、身の回りのものの言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。【知・技】
- ・互いのことをよく知るために、何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。【思・判・表】
- ・互いのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとしている。【態度】

(3) 単元の評価規準（主な学習活動）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	日本語と英語の音声の違いに気づき、果物や食べ物など、地域にある身の回りのものについて、What~ do you like?やI like ~.などを用いた表現を聞くことに慣れ親しんでいる。	本単元では評価しない。	本単元では評価しない。

話すこと「やり取り」	果物や食べ物など、地域にある身の回りのものについて、What ~ do you like?やI like ~.などを用いて何が好きかを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	互いのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、果物や食べ物など地域にある身の回りのものについて、何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合っている。	互いのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、果物や食べ物など地域にある身の回りのものについて、何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。
------------	---	---	--

(4) 単元計画～言語活動を中心とした単元構成の工夫（手立てⅠ）～

※ は主な言語活動

1	<p>◆日本語と英語の音声の違いに気付くとともに、身の回りのものの言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのものや佐那河内にあるものの言い方を知る。 ○フェイント・リピート ○指導者のやり取りから、好きなものを答える。 ○【Let's Chant】What do you like? ○ペアで何の食べ物が好きかを尋ねたり答えたりする。 ○単元のゴールをつかむ。
2	<p>◆地域にある身の回りのものについて何が好きかを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○フェイント・リピート ○【Let's Chant】What do you like? ○Who am I?先生クイズ ○おはじきゲーム ○ピットリゲーム ○佐那河内の好きなものについて尋ね合う。 ○先生に聞いてみよう
3	<p>◆地域にある身の回りのものについて、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。また地域にある身の回りのものについて、何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【Let's Chant】What do you like? ○【Let's Listen】p.20 ○【Activity2】友達に佐那河内で何が好きかについてインタビューする。 ○Who am I?友達クイズ
4	<p>◆互いのことをよく知るために、相手に伝わるように工夫しながら、地域にある身の回りのものについて、何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【Let's Chant】What do you like? ○中学生と佐那河内の好きなものについて尋ね合う。 ○インタビューをして分かったことを共有する。

前単元の課題から、単元を通して、自分のことを伝え合う言語活動を中心とし、単元を構成した。また、佐那河内の果物や食べ物など児童にとってより身近な題材を取り扱うことにより、児童の興味・関心を高めることができると考えた。第1時から、身の回りの好きなものを尋ね合う活動を取り入れ、第2時では佐那河内の好きなものを尋ね合う場面を設けた。第3時では学級の友達にインタビューを行った。さらに第4時では、佐那河内のことをよく知っている中学3年生に地域の好きなものを尋ね合う活動を設定した。

(5) 授業の実際～友達について、新たに気付いたり理解を深めたりする活動（手立てⅡ）～

- 佐那河内で好きなものを尋ね合おう

第2時ではまず、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現を使って、「Who am I?先生クイズ」を行った。児童は、佐那河内の好きな果物や食べ物などのヒントを聞いて、どの先生か

を予想し、先生のことを知りたいという思いをもって尋ねていた。その後、友達と佐那河内で好きなものについて尋ね合った。最後に、教育実習の先生に佐那河内で何が好きかを尋ねる場面を設けた。第1時よりも自信をもって尋ねる姿が見られ、「先生がさが川が好きだと知れてうれしかった」「先生にもっといろいろなことを聞いてみたい」と意欲をもつ姿が見られた。一方で、友達のことについて知りたいという意欲の高まりをあまり感じられなかったため、活動内容や手立てを工夫する必要があると考えた。

○ Who am I?友達クイズ

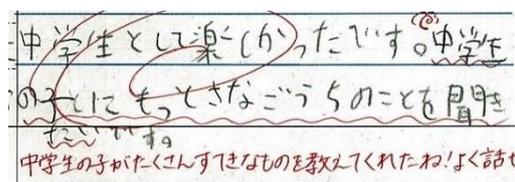
第3時では友達についての気付きにつながるように、相手の好きなものを予想してから尋ね合い、授業の終わりに Who am I?友達クイズを行うことにした。自分が予想していたものと違っていたときには、「初めて知った」と驚きの声を挙げたり、自分と同じものが好きだと分かって喜んだりする様子が見られた。次に、ある児童の好きなものをヒントとした Who am I?友達クイズを行った。児童の好きなものを学級全体で共有することで、友達と自分との共通点に気付くことができた。さらに、取り上げた児童に、好きな理由を尋ねた。ある児童の「おじいちゃんが牛をずっと育てているから、大川原高原が好き」という言葉に他の児童が熱心に耳を傾け、友達への理解を深める様子が見られた。



(6) 単元を終えて

○言語活動を中心とした単元構成の工夫（手立てⅠ）

第4時の中学生と佐那河内で好きなものについて尋ね合う活動では、反応したり、How are you? や Do you like~?など知っている表現を使ったりしながら、楽しく会話する様子が見られた。その中で「中学生の子がトンネルが好きだと教えてくれた」と佐那河内について新たな気付きをしている児童もいた。そして、「もっと英語で会話をしてみたい」という意欲が高まってきた。



中学生と英語で会話できたことに楽しさを感じ、英語で会話することへの意欲の高まりを感じる。

【児童の振り返り④（第4時）】

○友達について新たに気付いたり、理解を深めたりする活動（手立てⅡ）

好きなものを予想してから尋ね合う活動や Who am I?友達クイズをすることを通して、友達の新たな一面や自分との共通点に気付き、友達についてもっと知りたいという意欲が高まってきた。

あかあな、ことが上手に言
てくれ、からたて、(生易所)
深、いろいろは友だちに聞いた、中学生の子に聞いた、

→

さんの「天-社」すき、
ん、知らなかつたのでも、こ...、
し、おながさんの新しい発見ができたね、また聞いてみたいね、

さんのこと
よく知リ
てます

第2時では表現の慣れ親しみの観点で振り返っているが、第3時では友達についての新たな
気づきをしていることが分かる。

【児童の振り返り⑤ (第2時→第3時)】

※教育実習の先生

※はた、先生の、こと、し、ま、ん、と、は
わ、か、つ、た、の、か、う、れ、
は、じ、め、て、は、た、先、生、と、お、話、し、た、け、れ、ど、分、か、つ、た、ね、

→

さんが、み、か、ん、と、な、り、ゆ、め、
し、お、ま、な、い、と、を、は、じ、め、知、つ、て、お、じ、え、ま、し、た、
知、つ、て、い、る、よ、う、で、も、知、ら、な、い、こ、と、が、あ、つ、て、お、も、し、ろ、い、発、見、が、で、き、た、ね、

第2時では先生について関心が向いていたが、第3時では友達に関心が向いていることが分かる。

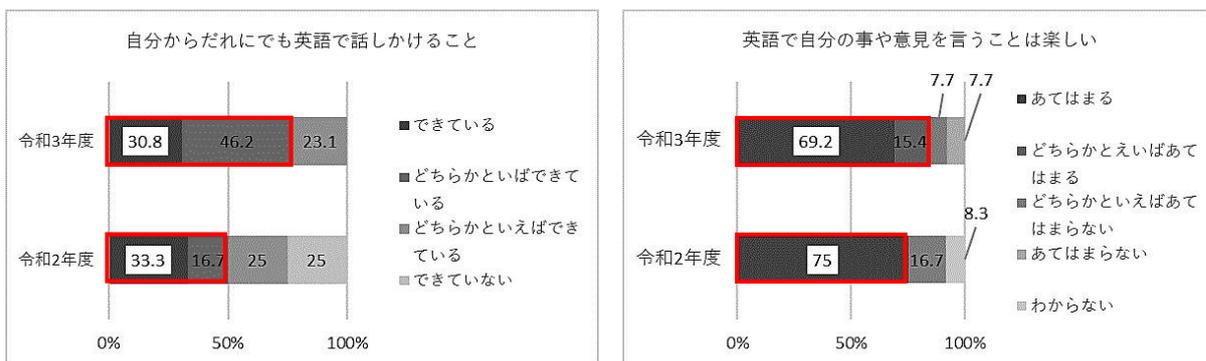
【児童の振り返り⑥ (第2時→第3時)】

5 成果と課題

(1) 成果

① 手立てⅠ：児童が自信をもてるよう言語活動を中心とした単元構成の工夫について

英語に対する意識調査において「自分からだれにでも英語で話しかけることができますか」という質問に対して「できている」「どちらかといえばできている」と肯定的な回答をした児童の割合は、令和2年度12月では50%であったが、令和3年度10月には75%になった。「英語で自分の事や意見を言うことが楽しいですか」という質問においても、肯定的な回答をした児童の割合は、令和2年度12月では75%であったが、令和3年度10月には84.6%となった。言語活動を中心とした単元構成を工夫し、英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う経験を重ねることで、自信をもって英語で話そうとする児童が増えてきた。



【英語に対する意識調査の結果 (令和2年度12月・令和3年度10月3年生実施)】

② 手立てⅡ：友達について、新たに気付いたり理解を深めたりする活動について

お互いの虹を見比べたり、好きなものを予想してから相手に尋ねる活動や Who am I?クイズを取り入れたりすることで、友達の新しい一面や自分との共通点に気づき、相手について知る喜びを感じていた。また、相手のことを知りたいという思いをもって相手の話に耳を傾け、反応したり質問し合ったりしながらやり取りすることで、言葉で伝える楽しさを実感していた。

友だちの　さんと会話をして、わたしが好きな物は「budo」と言て、さんと同じことを言たのでとてもうれしかったです、

Me, tooとかそれはノーアイトンとか対がにこたえてくれてうれしかったです。

いろいろな事を聞いたり聞かれたりして、同じ食べ物の中には「ナイス」と言えたりして楽しかったです。

さんとグループのとき、「グループがいいよ、Me, too!」と言てくれたのでうれしかったです。

【英語に対する意識調査　3年生の外国語活動についての自由記述（令和3年度10月実施）】

(2) 課題

① 手立てⅠ：言語活動を中心とした単元構成の工夫

- ・チャンツやゲーム等の練習においても、教師が既習表現を用いて児童とやり取りをする場を増やし、単元を通して言語活動のさらなる充実を図る。
- ・児童が主体的に聞いたり話したりするために、興味・関心をもつことのできるような題材を選定したり目的や相手をより明確にした単元ゴールを設定したりする。
- ・アンケートで肯定的な回答が得られなかった児童が自信をもって活動できるよう、さらに単元構成の工夫と支援を行う。

② 手立てⅡ：友達について、新たに気付いたり理解を深めたりする活動

- ・教師が常に児童を主役にする視点をもって声かけや活動を考え、「相手について知りたい」と思えるような授業展開をする必要がある。

4 おわりに

自分のことを理解してもらえることは、誰にとっても嬉しいことだろう。相手のことを知り、互いに分かり合えることもまた、大きな喜びである。その喜びは、互いが「相手について知りたい」という思いをもち、コミュニケーションを図るからこそ生まれることである。今回の実践を通して、自分の本当の考えや気持ちを言葉で伝え合うからこそ、「聞きたい」「話したい」という思いをもつことにつながるのだと改めて実感した。保育所の頃から一緒に過ごしてきた友達の意外な一面を知ったとき、相手も自分と同じものを好きだと知ったとき、一生懸命話した英語が伝わったとき、児童は本当に嬉しそうな表情を浮かべていた。その表情を見て、児童の心が動いていると実感した。また自分自身、目の前の児童のことを考えながら、外国語活動の授業を創る楽しさを実感することができた。

今後も児童とともに外国語活動を楽しみながら、言葉で伝える楽しさを感じられる授業を創ってきたい。

参考文献

文部科学省（2017a）『小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック』

文部科学省（2017b）『小学校学習指導要領解説　外国語活動・外国語編』